

Re^oAL

2015.5 Vol.25

NIKAKAI ASSOCIATION OF PHOTOGRAPHERS



今、戦後の混乱期に思いを馳せ 大竹先生との出会いを思う

●文——矢島敦美

私は1946年、太平洋戦争終結の翌年に疎開先の山梨県塩山市から東京・杉並の自宅に戻りました、8歳の時です。当時、杉並の自宅近くに零式戦闘機を製造していた中島飛行機の工場があり、東京に空襲があった場合、一帯は爆撃を受ける可能性が高かったので疎開していました。幸いにもわが家は難を逃れ、被害はありませんでした。

わが家には70坪ほどのステージ付きのホールがありました。戦後間もない頃、そのわが家になぜか進駐軍のG Iが遊びに来ていて、ホールでレコードを聞いたり、ダンスを楽しんでいる姿をよく見かけました。父が英語に堪能だったので、誰かの紹介で外人や宣教師までが出入りするようになったのか、真相は今もってわかりません。

レコードはV・D I S C（ビクトリー・ディスク）と言われ、アメリカ政府が戦争中にヨーロッパ戦線や前線基地の慰問用に蓄音機と一緒にパラシュートで投下

していたものだそうです。このレコードはS P 盤（78回転・30センチ）で、現在もわが家に保存してあります。兵士たちへのメッセーじやジャズ、ラテン、シンフォニック・ジャズが録音されています。

戦後の食糧難の時代でしたが、彼らは京浜急行の南馬場（みなみばんば）にあったP X（進駐軍専用のスーパー）から食料品を買い入れ、わが家にジープで持ち込み、母にスキヤキを作らせて食していました。また、G H Qの占領政策でキリスト教布教のためモルモン教がわが家の二階を使って日曜学校（英語教室）を開いていました。米国本土の日本向けの援助団体から「ララ物資」と言う名目でTシャツ、ジーンズ、セーターなど多くの古着が送られて来て、それらを周辺の人々に配っていました。

＊

1945年（昭和20年）秋、G H Qは兵士や家族の娯楽施設として劇場やクラブの多くを接収しました。少女歌劇やレ

ビューで人気を博していた東京・日比谷の「東京宝塚劇場」もその対象となりました。この劇場は、第二次大戦の激戦地沖縄で命を落とした従軍記者アーニー・パイルの名前に因んで「アーニー・パイル劇場」と呼ばれました。劇場にはアメリカから多くの俳優や歌手などが慰問に訪れました。喜劇俳優のボブ・ホープ、女性コーラスグループのアンドリュース・シスターズ、ジャズのレス・ブラウン楽団などが派遣されて来ました。

大竹先生は戦後、G H Qの広報スタッフの一員（写真記録担当）として、アーニー・パイル劇場を訪れた多くの有名人を撮影しています。大竹先生が撮影した写真に、舞台上で演出しているジョージ・ステイブンス氏が写っている写真があります。アメリカ本土から派遣されて来た大物です。彼は帰国後、映画監督、プロデューサー、脚本家として活躍、「陽の当たる場所」「シェーン」「ジャイアンツ」「アンネの日記」など多くの作品



アーニー・パイル劇場で撮影中の『ライフ』誌カメラン、ジョニー・フローリア氏（中央）と演出中のジョージ・ステイブンス氏（右端）
大竹省二著『遙かなる鏡—写真で綴る敗戦日本秘話』（中公文庫）より

Photo：大竹省二



「鳥取県には、スタバは無いが、スナバがある」と言った知事の自虐ギャグが話題になったことがあります。鳥取は全国で唯一、スタバの空白地区でしたが、今年の五月に開店しました。

「スナバ」とは、もちろん鳥取砂丘のこと、日本一の砂丘と砂の美術館は、多くの観光客を魅了します。写真愛好家にとっても、朝光に映える風紋や砂と戯れる人々のスナップ、夕日に染まる丘のシルエットなど被写体は豊富で、写欲を奮い立たされます。

人があまり近づかない砂丘の片隅に、演出写真で有名な植田正治先生の写場があります。植田正治写真美術館の友の会は、植田先生の撮影地を巡るツアーを実施しています。「写すから創る写真」を提唱した植田先生の思想を砂丘で体験。小道具を使ったり、モデルを演出したりと、作品づくりの過程を楽しみました。

掲載作品は、その「写真する」楽しみから生まれた一枚です。

砂丘劇場

生田英明（会員）



Photo：大竹省二

やじま・あつみ

昭和12年、東京生まれ
昭和34年、日本放送協会に入局
昭和35年、番組制作局・音楽部にて「のど自慢」「紅白歌合戦」「グラランド・ショー」など主にエンター・テインメント番組の企画・制作にあたる。後に、教養番組、生涯学習番組の企画・制作に従事。また「大阪万博」「つくば科学万博」「横浜博」や「国民文化祭」の立ち上げにもあたる。

昭和39年、大型汎用コンピュータの導入による番組・技術の効率的運用システムの開発に参画。

昭和62年、関連団体に出向し、ハイビジョン・ソフトの制作とイベントに従事。

平成3年、日本放送協会を希望退職し、同年TVの制作会社を設立。

平成11年、財団法人静岡県文化財団にてイベントの企画・制作に従事、現在に至る。

を手がけました。当然、アカデミー賞も受賞しています。

大竹先生は、その後も昭和天皇と香淳皇后、マッカーサー元帥とジーン夫人、指揮者のヘルベルト・フォン・カラヤン、サスペンス映画監督アルフレッド・ヒッチコック、音楽使節で来日したトランペット奏者サッチモことルイ・アームストロング、新婚旅行を兼ねて来日した米大リーグ・ニューヨークヤンキースの4番打者だったジョー・ディマジオと人気絶頂の女優マリリン・モンローなどのほか、昭和の文化人、芸能人、文壇人などを多く撮影しています。

1956年（昭和31年）にアーニー・パイル劇場が返還になって元の東京宝塚劇場の名に戻りました。NHKはこの東京宝塚劇場で記念すべき第7回「NHK紅白歌合戦」を開催し、ナマ放送で全国に中継しました。この時の司会は、紅組が宮田輝、白組が高橋圭三の両アナウン

サーでした。その後も東京宝塚劇場は、紅白歌合戦の会場として、渋谷にNHKホールが完成する1972年まで使われました。

＊

大竹先生との最初の出会いは1981年で、私が神戸ポートアイランド博覧会会場から放送のために、会場の下見に行った時です。大竹先生が参事の要職に就かれていて、現場でいろいろと便宜をはかっていただきました。

大竹先生は2013年に静岡のグランシップ展示会場で、1960年代にヨーロッパで撮影したモノクロ作品120点ほどの写真展を開催しています。この写真展のために印画紙をチェコから取り寄せ、光の陰影、微妙なグラデーションを再現すべく試し焼きを重ね、やっと完成した作品です。展示会場内の天井や壁を暗く抑え、作品の照明はタングステンランプで光量を極端に抑えました。大変深

みのある展示で、鑑賞する人の心に深く染み入る写真展で感銘を受けました。

この1960年代のヨーロッパの作品は、単なる記録写真ではなく、人の心に深く染み込む創作力、光と影が織り成す絶妙なハーモニーが表現されていて、それはまさにアート作品そのものでした。

それからは、大竹先生を「アーティステック・フォトグラフィアー」として、ずっと尊敬の念を深く持っています。

先日、先生のお宅を訪ね、二人が生きて来た時代の話に花を咲かせました。二人の共通の話題は、やはりカメラやオーディオなど、懐かしい話が中心でした。最近は機材が進化していますが、「見るもの、聞くもの」は、やはり「デジタルよりアナログのほうが個人的には好き」ということで意見一致。アナログの持つ空気感、ぬくもり感、味のあるゆとりの時間は、人には優しいとの結論でした。

＊

私は、1959年にNHKに入局、「のど自慢」「紅白歌合戦」「大阪万博」「科学万博」など、多くの番組とイベントに関わってきました。私の78年間はアツと言う間に過ぎました。

優れた先輩や良き友人に恵まれ幸せでした。ここに深く感謝を申し上げます。それから恵まれた環境で育ててくれた両親にも・・・そして自分自身に乾杯！人生一路でした。





孤高の鳥

松井秀雄（会友）

見る人に想像の余地を残し、イメージが膨らむような風景写真を撮りたい」と願いながら撮影に取り組んでまいりました。そのため、霧や雲海のある情景には、特に強く心惹かれます。

掲載作品は、岡山県の弥高山で撮影したものです。弥高山は、秋から冬にかけて雲海が湧くことで有名です。私は毎年のように通って、新たな出会いを楽しんでいます。

この日も、いつものように雲海を撮影しようと山頂へ向かう途中で、カラスが1本の立木に止まっている予期しない光景に出合いました。突然の展開で、カラスが逃げないうちに写さねばと、急いでカメラをセットしました。

1羽のカラスが木立のてっぺんから周囲を睥睨（へいげい）している姿に、人間の孤高の姿を重ねてとらえるという啓示を与えられたように思いました。

この作品をパリで開催した個展に展示したところ、「墨絵のようだ」との言葉を頂戴し、望外の喜びでした。

湖面

尾崎浩史（会友）

佐賀県北部の北山ダム湖で撮影したものです。自宅からは約1時間の好撮影地で、ここ20年来通い詰めています。毎年秋から冬にかけて湖面の水位が下がり、干し上がったダムの底に様々な原風景が見られます。

霧や霜に覆われた湖の中から恐竜やトナカイの角、狼に似た木が現れ、ひび割れた大地に芽吹く草木など、想像力を掻き立てられます。

掲載作品は、冷え込んだこの日の朝、切り株に霜が降りていました。その姿に残されたものの悲しみを感じながらシャッターを切りました。

私は、撮影のテーマとして「生と死」「原風景」などを掲げています。また、常々「見せる」のではなく「読ませる」写真づくりを心がけています。これからも、「心で感じる写真」を撮りたいと思っています。



舟屋の光景

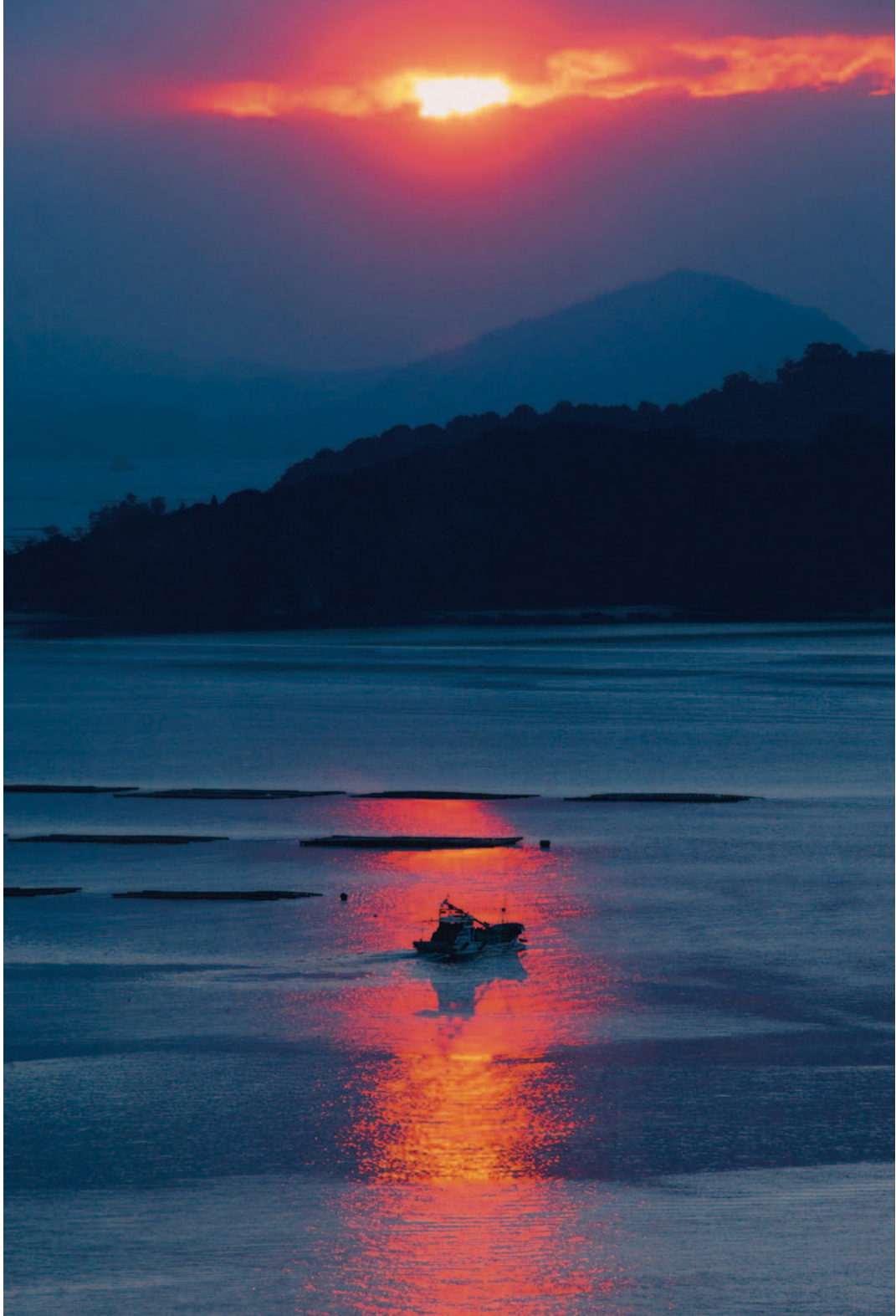
田中孝視（会友）

私は旅が大好きで、息子が稼業を引き継いでからは、車で撮影旅行に出かけることが多くなりました。

掲載作品「舟屋の光景」は、北陸、近畿方面に撮影旅行した折に、偶然に舟屋の漁師さんと出会って道案内をしていただき、撮影した一カットです。

丹後半島の伊根町伊根浦地区は漁師町で、湾沿いには舟屋と呼ぶ伝統的な建物が軒を連ねて建っています。海に面した1階は船のガレージと仕事場、2階は住居になっています。この地域に230軒の舟屋がありますが、この景観は、他で出合うことはまずないであろうと感動しました。

作品の狙いは、光と影です。朝の光線が湾内の舟屋を照らし、光を受けて輝きを増す2軒の舟屋。そして、さざ波に揺れる影に詩を感じて撮影しました。



瀬戸の朝

井深壽一（会員）

瀬戸内海のほとり、廿日市市に住む私は、対岸が宮島という立地で、海や島の四季の移ろいを撮影することをテーマの一つとしています。厳島神社の祭事や伝統行事、社殿の造形美、そして海峡では幾何学模様のカキ簀（棚）や沖に浮かぶカキ筏が、多島美とともに華を添えています。

掲載作品は、早朝のまだ暗い時刻、通い慣れた丘の高台から日の出を待ちました。しかし、薄曇りの空は、夜明けとともにますます雲が厚くなり、空も海もどんよりとした鉛色へと化してしまいました。撮影をあきらめてぼんやり海を眺めていたその時、突然、僅かな雲の隙間から鈍い太陽が顔を出し、一条の光を海面に投じました。鉛色の海は一瞬鮮やかに輝き、折しも一艘の漁船が、その輝きのなかを通過しました。そして、そのあとは再び暗雲の情景に戻りました。



記念撮影

鈴木崇生（会友）

東三河地方は、多彩な伝統の祭りや行事が多く、カメラマンにとって被写体に事欠かない恵まれた土地です。

カメラを手にしてから40数年になります。写真を撮り始めてから数年後に、撮影のモチーフを決めてチャレンジしようと考えました。当地では未開のジャンルだった京都花街の舞妓・芸妓をその対象に決め、撮り続けて来ました。もう35年余りになります。

花街は特殊なモチーフですが、幸いに舞妓・芸妓さん、お茶屋さんとのコミュニケーションができ、協力をいただきながら人情味溢れる「花街情景物語」の撮影を舞妓撮影愛好家と共に楽しんでおります。

この掲載作品は今年の正月、馴染みのお茶屋さんの前に芸妓・舞妓さんが勢揃いして記念撮影する直前の光景をスナップ撮影した一枚です。

今後も「細く・永く・元気」な人生をモチーフに写真撮影を楽しみながら、努力してまいります。

3つ子ちゃん

竹尾康男（会員）

「スナップは自由にのびのびとやってこそ楽しい」と願いながらも、昨今は肖像権が頭にちらついて、なかなか自由に楽しむということにはなりません。その点、スナップ写真が気楽に撮れるのが、祭りです。

この日も祭りの撮影に出かけたのですが、メイン会場附近はカメラの放列ができていました。私は、いつものように裏手に回って被写体探しを始めました。間もなくこの3つ子ちゃんに出会い、こころよく撮影許可を得ることもできて大成功。が、張り切り過ぎて「しつこい奴」と両親に苦い顔をされてしまいました。親子のほのぼのとした雰囲気の写真が狙いだったのに、赤ちゃんの3人3様の可愛い仕草を記録するだけに終わってしまいました。

「運も実力のうち」と言われますが、こちらの気持が十分に受け入れてもらえなかったのは、何としても残念。私の力不足を痛感させられました。

内藤利夫写真集

『愛しい動物たち』



喜寿の記念に、長年ライフワークとして撮り続けてきた動物たちを写真集『愛しい動物たち』にまとめました。

私と写真の出合いは、子どもの頃、兄のカメラを借りて面白半分に撮ったのが始まりです。撮った写真を兄に見せたところ「面白い写真撮るね」と言われ、嬉しくなった思い出があります。その嬉しくなったときの夢を実現すべく、社会人になってからカメラを買いました。以来あきらめずに夢を追い続けています。

動物写真の心得は、①根気、②動物の習性をよく観察、③忍耐強くシャッターチャンス待つことと言われています。

特に動物写真に夢中になったのは、動物をじっと見つめていると、何となくいやされるような気分になれるからです。

根気よく動物写真を撮ること、その日



『愛しい動物たち』より

は一日のいやなことを忘れ、気分が晴れたように感じます。

「動物と付き合うことが、私に向いているのじゃないか」と思っています。動物たちの自然な表情、愛らしい仕草、何かを語りかけるような表情などを無言で撮り続けていると、動物たちに対して自分の気持ちが伝わるように思え、撮影が終わると、感謝の意を込めて「皆、今日もありがとう」と言っています。

そして、少しでも気持ちが伝わるような、そんな表情や感情が表現できていればいいなあと思います。

(内藤利夫 会員・愛知支部)

菊川浩行・著

『虫と遊ぼう』

デジカメもって』



古希の記念に、自分のためのわがままな小さな写真集を出版しました。タイトルが示すように子供向けの本で、作品集ではありません。

私たちのすぐ隣にすんでいる虫たちの個性あふれる生態に、子供たちが少しで



『虫と遊ぼう デジカメもって』より

も関心を持つてくれれば嬉しいです。

林道を気ままに歩きながら、目についた虫たちにレンズを向けています。同じ路でも歩くたびに初めての虫に出合うことが多く、知っている虫でも思いがけない行動を見せて感動を与えてくれます。

写真は「自然のままにすっきりと」を心がけて撮影しています。

たった1センチに満たない小さな虫に目が行くようになったのはここ数年で、その多様性に驚いています。少しずつ虫の知識が増えるのも嬉しいものです。簡単な虫の解説に加え、八方破れの五七五も添えました。世界に誇る美しい日本語の勉強は、ボケ防止に役立ちそうです。

カメラを肩に木や草花を見ながらの林道歩きは、できる限り続けたいと思っています。もし次回があるなら、もう少し読み物風にしたいという希望を持っています。(菊川浩行 会員・鹿児島支部)

シャンパンブルー

今井田琇子(会友)

二科展の初入選は、花火の写真「夏の花」で賞をいただき大感激でした。花火撮影は、ポジフィルムを使用し、多重露光しないでシャッターは1回だけ。古いかもしれませんが、この方法にこだわって撮影しています。

大曲や長岡など、打上げ花火の数が数万発という大会では、その豪華絢爛な一瞬に胸を躍らせます。いっぽうで、田舎の小さな村でのひなびた手作りの花火大会も大好きです。台風や雨で中止になることもしばしば、風向きや残煙、人混みなど撮影条件もむずかしいのですが、だからこそ一瞬の美しさに心が魅了されているのだと思います。

掲載作品は長野県で撮った花火。師走間近で、寒さに震えながら狙い続けた甲斐あって、シャンパンが弾けたような、爽やかなブルーの花火が撮れました。

いつの日か心から満足の一枚を写してみたいと、夢を見ております。

「遠野市民俗芸能撮影会」優秀賞作品

撮影会＝2015年1月17日(土) 会場＝遠野市「遠野ふるさと村」 主催＝二科会写真部東北地区6支部



優秀賞「神楽」
森住 博(会員・徳島支部)



優秀賞「お疲れ様」千田洋子(石川支部員)



優秀賞「ふれあい」須藤秋男(秋田支部員)



優秀賞「演技終えて」小野寺泰雄(会員・秋田支部)



優秀賞「雪の復活祭」松下紀和（兵庫支部員）



優秀賞「舞う」有川マサコ（東京支部員）



優秀賞「祭りの日」田中由美子（大阪府・一般）



優秀賞「朝陽のしし踊り」鶴海澄子（兵庫支部員）

第63回展の一次審査が終了 入選内定作品が決まりました



第63回展一般公募作品の一次審査

○審査委員長＝大竹省二創立会員

○審査員＝徳永善彦会員、森井禎紹会員、川本征紀会員、蜂須賀秀紀会員、角尾栄治会員、近藤誠宏会員、柳原香会員、徳永美奈子会員、大山莊一会員、坂部子一会員、村上則子会員、藤森順治会員、丹羽正仁会員、鈴木洋一会員、佐藤ちえ子会員

○進行管理＝片岡順一会員、天内紀元会員

○立会人＝今井寿雄会員、安久雅人会員

第63回二科会写真部展の一般公募は、「単写真部門」と「組写真部門」の2部門で募集し、3月1日(日)～7日(土)に委託搬入(郵便または宅配便)のみで応募の受け付けを行いました。

第63回展一般公募の応募状況は「単写真部門」が2207名・10359点、「組写真部門」が171名・485組、加えて単・組写真混合応募が615名・5786点ありました。応募総数では、前年に比べ応募者数では62名増加し、応募作品数で14点の増加になりました。

第63回展一般公募作品の一次審査は、4月9日(木)～11日(土)の3日間、東京・国立新美術館の審査室で行いました。審査委員長は大竹省二創立会員、審査員は二科会写真部会員15名が務めました。

初日の9日(木)は午前11時から審査を開始。まず「組写真部門」171名の応募作品を個人別に並べて審査し、入選候補作品をピックアップして1名1作品に絞りました。この時点で入選候補として残らなかった作品は、残念ながら落選となります。

午後は単・組写真混合応募615名の作品を個人ごとに審査。単写真あるいは組写真のどちらかを選出しました。残った作品は、入選候補としてそれぞれ「単写真部門」と「組写真部門」に振り分けます。単・組写真混合応募の粗選りを終

え、初日の審査は午後6時45分に終了しました。

2日目の10日(金)は午前10時から開始。前日に選出した「組写真部門」の入選候補作品を風景・スナップ・花・動物など12ジャンルに分類してジャンル別に審査。更に類似作品のチェックなどを行い、厳正かつ慎重に審査を重ねた結果、「組写真部門」入選内定作品206組が決まりました。

午後からは「単写真部門」応募作品の選考に移り、2207名の作品を個人別に審査。審査員の意見が分かれた場合は挙手による多数決で選ぶなどして、審査員全員が集中して応募作品と対峙し、緊張感のある審査会場で順調に審査が進行しました。午後6時40分に2日目の審査を終了しました。

3日目の11日(土)は午前10時から開始。前日に引き続き単写真を審査し、午後1時40分に全応募作品の審査を終了。午後1時45分から審査で残った入選候補作品を18ジャンルに分類し、ジャンル別に繰り返して審査を行いました。そして第63回展の「単写真部門」入選内定作品677点が決定。審査終了時の第63回展一般公募入選内定者は、単写真・組写真合計で883名となりました。

3日間にわたる一次審査が無事に終了しました。審査員の方々、ご協力いただいた皆さん大変お疲れ様でした。

(事務局長・片岡順一)

NEWS FILE

■支部展情報

●第24回茨城支部公募展

会期…6月2日(火)～7日(日)

会場…日立市角記念市民ギャラリー

会期…6月9日(火)～14日(日)

会場…牛久市中央生涯学習センター

会期…6月16日(火)～21日(日)

会場…鹿島セントラルホテル セントラルモール・ステージ

会期…6月25日(木)～28日(日)

会場…下妻市ふるさと博物館

●第42回静岡支部公募展

会期…6月2日(火)～7日(日)

会場…静岡県立美術館 県民ギャラリー

●第27回山梨支部展

会期…6月9日(火)～14日(日)

会場…山梨県立美術館 県民ギャラリーC

会期…6月21日(日)～7月12日(日)

会場…プロボ富士「ギャラリー富士」

●第40回群馬支部展

会期…6月12日(金)～16日(火)

会場…高崎シティギャラリー 第1展示室

会期…6月24日(水)～28日(日)

会場…鹿児島県歴史資料センター黎明館

●サロンド・二科鹿児島支部展(四部門合同)

会期…7月7日(火)～12日(日)

会場…埼玉会館 第1・第2展示室

会期…7月21日(火)～26日(日)

会場…深谷市民文化会館 展示室

会期…8月17日(月)～23日(日)

会場…所沢市民文化センター ミュース

●第23回栃木支部展

会期…7月8日(水)～12日(日)

会場…栃木県総合文化センター

●第8回徳島支部展

会期…7月10日(金)～14日(火)

会場…シビックセンター 3階ギャラリー

●第14回島根支部写真展

会期…7月29日(水)～8月2日(日)

会場…タウンプラザ島根

会期…8月8日(土)～14日(金)

会場…石正美術館

●第22回宮城支部展

会期…7月31日(金)～8月5日(水)

会場…せんだいメディアテーク

●鳥取支部展

会期…8月28日(金)～9月1日(火)

会場…米子市美術館 第1展示室

●東京支部展

会期…9月4日(金)～10日(木)

会場…フレイムマンエキシビジョンサロン銀座

●第35回九州・沖縄地区公募展

会期…9月15日(火)～23日(水)

会場…福岡市美術館 特別展示室B

●第40回記念北海道支部公募展

会期…9月18日(金)～23日(水)

会場…旭川市民ギャラリー

■支部公募展作品募集

●第35回九州・沖縄地区公募展

◇応募資格…九州各県および沖縄県の在住者・在勤者・プロ・アマは問わない(支部員を除く)

◇テーマ…自由(未発表作品に限る)

◇サイズ…四ツ切、A4サイズ

◇応募受付…6月29日(月)～7月7日(火)

◇応募方法…応募には所定の応募票が必要

◇応募料…1点につき1千円

◇審査…9月13日(日)12時より福岡市美術館

講堂で二次審査を公開

◇賞…二科会写真部九州・沖縄地区大賞ほか

●第40回北海道支部公募展

◇応募資格…北海道在住者、プロ・アマは問わない

◇テーマ…自由(未発表作品に限る)

◇サイズ…四ツ切、A4サイズ

◇応募受付…7月1日(水)～7日(火)必着

◇応募方法…応募には所定の応募目録が必要

(問合せ先…斉藤憲司北海道支部長

☎0166・61・0704)

◇応募料…一般5千5百円、支部員3千5百円

◇賞…北海道支部大賞ほか

●第37回広島支部公募展

◇応募資格…広島県内の在住者・在勤者

◇テーマ…自由(未発表作品に限る)

◇サイズ…四ツ切、A4サイズ

◇応募受付…7月22日(水)～31日(金)

◇応募方法…応募には所定の応募票が必要

(問合せ先…瀬野秀明広島支部長 ☎082・822・5254)

◇応募料…一般1点につき1千円(支部員は無料)

◇賞…広島県知事賞・広島支部大賞ほか

■特別会員・会員・会友・支部員情報

●高倉百合子写真展「魅せられて」

広島支部・高倉百合子会友の個展。

会期…4月1日(水)～16年2月29日(月)

会場…安芸高田市立八千代の丘美術館

●久保田稔写真展「信州の子供たち―四季によせて」

長野支部・久保田稔支部員の個展。

会期…6月11日(木)～17日(水)

会場…HCLフォトギャラリー 新宿御苑

会期…6月23日(火)～29日(月)

会場…HCLフォトギャラリー 名古屋

●吉田功写真展「廃校・大滝小最後の一年」

埼玉支部・吉田功会友の個展。

会期…6月16日(火)～22日(月)

会場…ニコンサロン bis 新宿

●松島寛写真展「キューバの風」

東京支部・松島寛支部員の個展。

会期…7月7日(火)～13日(月)

会場…ニコンサロン bis 新宿

●渡会幸雄写真展「四季彩景」

愛知支部・渡会幸雄会友の個展。

会期…7月24日(金)～29日(水)

会場…富士フィルムフォトサロン 名古屋

●長井泰彦写真展「郷・紀行」

滋賀支部・長井泰彦支部員の個展。

会期…8月25日(火)～30日(日)

会場…大津市歴史博物館企画展示室

●伊藤一生写真展「動物園と水族館の仲間達」

愛知支部・伊藤一生会友の個展。

会期…9月29日(火)～10月13日(火)

会場…HCLフォトギャラリー 名古屋

●中西武臣写真展「祭彩」

兵庫支部・中西武臣支部員の個展。

会期…10月2日(金)～8日(木)

会場…富士フォトギャラリー 新宿

●佐藤玲写真展「Athlete (私はアスリート)」

東京支部・佐藤玲支部員の個展。

会期…10月27日(火)～11月2日(月)

会場…ニコンサロン bis 新宿

●吉田功写真集『廃校・大滝小最後の一年』

埼玉支部・吉田功会友の作品集。

サイズ 247×257ミリ・モノクロ

定価 2800円 (税込)

日本写真企画 ☎03・3551・2643

INFORMATION



■2015年度行事予定

- ◎第100回記念二科展（＝第63回写真部展）
9月2日（水）～14日（月）国立新美術館
- ◎2015年度夏期定時会員会友総会（出席者は特別会員・会員・会友）
9月4日（金）／東京プリンスホテル
- ◎第63回二科会写真部展授賞式・懇親会（出席者は来賓・特別会員・会員・会友・入賞者・入選者および同伴者）
9月4日（金）／東京プリンスホテル

■『二科会写真部作品集』バックナンバーのご案内

毎年、二科会写真部展の全作品をオールカラーで収載した作品集を刊行しています。巻末には入賞者の受賞感想、第1回展からの入賞者と会員・会友推挙者一覧、会員・会友出品目録、入選者名簿などを掲載。二科会写真部の記録資料としても充実した内容になっています。購入希望者は、所定の申込書を事務局にご請求ください。

作品集バックナンバー価格及び在庫表

回数	回数	価格
1979年27回展	2010年58回展	15,000円 (支部員12,000円)
1980年28回展		
1981年29回展	2011年59回展	15,000円 (支部員12,000円)
1982年30回展		
1983年31回展	2012年60回展	15,000円 (支部員12,000円)
1985年33回展		
1986年34回展	2012年60年史	8,000円 (出品者6,000円)
1987年35回展		
1988年36回展	2014年62回展	15,000円 (支部員13,000円)
1989年37回展		
2002年50回展	※20～26、32、38～49回展および61回展作品集は、完売。	
2003年51回展		
2004年52回展		
2005年53回展		
2006年54回展		
2007年55回展		
2008年56回展		
2009年57回展		

■表紙のことは

「オランダのヨット・ハーバーにて」大竹省二 創立会員

オランダの首都アムステルダム近郊にあるヨット・ハーバーでの撮影。オランダは国土の4分の1が海面より下に位置しているため水路が多く、水は常に人々の身近にあり、地球温暖化にも関心が高い。オランダの空気はどこまでも透明感があり、じつに清々しい。女性の表情も明るく屈託がない。

『第100回記念二科展』 記念事業参加の写真部展示で 47支部へ協力をお願い

『第100回記念二科展（写真部第63回展）』記念事業の一環として、国立新美術館1階展示会場に記念展示コーナーを設け、二科会4部が参加して特別展示を行います。写真部は「未来」をテーマにした作品展示を展開します。このコーナーで展示する作品については、47支部に協力を頂くことに決めました。その概要は下記の通りです。

●作品の内容

《A》「未来」へ残したい全国各地の「風景」や「風物」「歳事」などの写真。
◇郷土自慢の風景や風物、祭りや催事などを撮影した写真、あるいは「未来」に残してほしい対象をとらえた写真。
《B》明るい「未来」を感じさせる「元気な家族の写真」、あるいは「子供たち」の写真。
◇農家や八百屋さん、職人一家など、稼業を代々受け継いで守ってきた人、これから守って行く後継ぎ、さらに受け継ぐ子供世代など、世代が見える家族の記念写真や働いている光景を撮った写真。
また、未来への希望の星「子供」の元気な姿をとらえた写真など。

- *《A》《B》とも支部内の撮影に限ります。
- *既発表作品も可。

●出品点数

上記の《A》、《B》のテーマを合わせて、各支部それぞれが作品10点以上。

●提出方法

- ◎作品は、A4～四ツ切プリント、または3～5MB程度のJPEGデータをCD-Rに保存して送ってください。
- ◎写真1点ごとに撮影者、撮影場所、撮影日時など、写真内容の簡単な説明文を添付してください。

◎出品者は、特別会員・会員・会友・支部員に限ります。

●提出期限

- ◎作品は支部でとりまとめ、一括して6月下旬までに提出。（作品返却は各支部長宛に一括して返却。個人へは支部から返却）

※詳細については支部長に通知します。

■『第62回展二科会写真部作品集』

2014年度「第62回二科会写真部展」に展示した総1,409作品をオールカラーで収載した貴重な作品集。巻末に入賞者受賞感想、第1回展から第62回展までの入賞者・会員会友推挙者一覧、創立会員・特別会員・会員・会友・入賞者・入選者の作品目録などを掲載。



■特別会員・会員・会友情報

吉川正之会友（大阪）2015年1月20日自主退会
吉本睦子会員（東京）2015年1月21日逝去
上田保会員（広島）2015年1月24日逝去
坂井誠路会員（岐阜）2015年2月6日逝去
岡部勇三会員（長崎）2015年3月31日自主退会
金子博昭会友（埼玉）2015年4月15日逝去
本寺一弘会員（鹿児島）2015年5月1日逝去

■「支部員バッジ」を頒布します

二科会写真部では、会員・会友および支部員それぞれにバッジを発行。支部員バッジのデザインは黒地に銀の二葉で、各支部に入会時、支部長が本部へ申請して購入、支部員に頒布します。支部員バッジが必要な場合は、支部長を通して本部事務局へお申し込みください。



●頒布価格＝1個2,000円

二科会写真部広報誌「REAL」Vol.25

2015年5月29日発行

発行所／一般社団法人二科会写真部

発行人／大竹省二

編集／一般社団法人二科会写真部

〒106-0031 東京都港区西麻布1-4-20

ワルトハイム西麻布 601

TEL. 03-3470-8033 FAX. 03-3470-8034

<http://www.nika-shashin.or.jp>